

第3年次*組 [普通科] 国語 学習指導案 日時 平成*年*月*日 (*) 第*校時 場所 *組教室 指導者 *** **			
育成する国語の能力	文章を読んで批判的に考えることを通して、人間、社会について自分の考えを深めたり発展させたりすること		
単元名	小説（二）『舞姫』		
単元目標	<p>○作品を味わい、主人公の心情や苦悩をとらえようとする。（関心・意欲・態度）</p> <p>○作品内の記述や時代背景を多角的にとらえた論理的な読解ができる。（読む能力）</p> <p>○作品内で用いられている語句・表現の意味を理解できる。（知識・理解）（〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「現代文B」内容の（1）の才）</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
取り上げる言語活動	文学的な文章を読み、主人公の回想録を創作し、人物の生き方について話し合うこと		
題材（教材）	高等学校 改訂版 現代文 [第一学習社]		
単元（教材）について	<p>(1) 生徒観：基本的な読解力は高く、大意把握・精読ともに長じているが、多角的視野に立った論理的思考・読解に課題がある。</p> <p>(2) 教材観：いわゆる「問題作」であり、結末にも賛否が分かれる。様々な読解の可能性があり、多角的視野から論理的思考・読解を行うのに適している。</p> <p>(3) 指導観：主人公の立たされている岐路・心情を的確に理解するために、適宜日記の執筆活動を行った上で、〈答え〉の一様に定まらない課題として主人公にとっての理想的結末を想定させ、理想的結末を迎えた後の回想録を創作する活動を行う。その際、その展開の実現可能性を本文の様々な記述や時代背景を参照して多角的・論理的に考えるようとする。そして、個々が創作した回想録をグループ内で共有して意見交流を行った後、新たに得られた視点を踏まえ最終的な回想録を創作する。</p>		
指導計画（学習計画）	主な学習活動	主な評価	
	1 森鷗外の生涯を学習し、当時の時代背景についてとらえる。（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・森鷗外の生涯や作品、時代背景をとらえようとしている。（関心・意欲・態度） 	
	2 『舞姫』を読解する。（10時間） <ul style="list-style-type: none"> ・導入では物語世界の内面化を図る。 ・まとめ豊太郎の日記を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を味わい、主人公の心情や苦悩をとらえようとしている。（関心・意欲・態度） ・作品内で用いられる語句・表現の意味を的確に理解している。（知識・理解） 	
	3 多角的・論理的に思考する。（3時間） <ul style="list-style-type: none"> ・理想的結末後の回想録を創作する。 ・回想録の共有と意見交流を行う。 ・回想録を再創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を味わい、主人公の心情や苦悩をとらえようとしている。（関心・意欲・態度） ・作品の記述や時代背景を踏まえ多角的・論理的に読解している。（読む能力） 	

*学習活動の詳細については下記の通り。

(学習活動の詳細について)

1 森鷗外について（第1次：1時間）

パワーポイントとプリントを用いて、森鷗外の生涯を学習し、当時の時代背景を捉える。この学習の目的は、森鷗外についての文学史的理解を深め、回想録を創作する際に、より多角的に考えられるように「当時の時代背景」を理解することにある。展開に際しては、具体的にイメージできるように森鷗外に関する写真や地図を示すとともに、イラストやクイズなどを盛り込み生徒の興味・関心を喚起するように留意する。特に、当時の時代背景の理解に大きな影響を与えると思われる「陸軍武官結婚条例」（陸軍一等軍医の結婚は、陸軍卿の許可が必要だという条例）は、クイズ形式を取り入れ記憶に残るようにする。

2 『舞姫』読解（第2次：10時間）

『舞姫』本文を10場面に分けて読解する。読解は雅文体を味わうことができるよう原文で行い、理解補助のために語句や内容の説明・解説を記したプリントを合わせて用いる。授業は、①内容確認〈導入〉→②読解〈展開〉→③日記作成〈まとめ〉の順で実施する。

(1) 内容確認〈導入〉

その日に読解する場面を事前に読んでくるように指示しておき、最初の5分間で各自であらためて読んだ後（事前に読んでくることを前提としているので、この時間設定は当該範囲を読むに十分な時間ではない）、内容に関する簡単な問題（正誤問題や整序問題など）に教科書を見ずに取り組む。この問題はあくまでも導入であり、いわゆる国語の問題とは形式が異なるので、一種の遊びという位置づけで、和やかな雰囲気のもとで行う。また、この導入の目的は、[1]物語世界の内面化（※1）と[2]内容理解の確保（※2）であり、それは生徒に周知する。

※1 [1]物語世界の内面化

ここでいう物語世界の内面化とは、端的にいえば内容を覚えることであり、教科書を見ずに問題に取り組むのはこのためである。内面化を図ることで、より積極的な読解が可能になり、また回想録創作においてもより多角的・論理的な思考が可能になると考えられる。

※2 [2]内容理解の確保

授業は雅文体の本文を読み進めていくので、プリントと並行して授業をすすめるにしても、多くの生徒にとって負担であることに違いはない。しかし、事前に読んだ段階（予習の段階）であまり理解できていなかつたとしても、問題は現代語で書かれており、問題に取り組み、答えを知ることで、その時間に読解する範囲の概要をつかみ、展開にスムーズに入ることが可能になる。また、この活動によって理解度を一定以上に確保することで、後に行う思索的探求の交流がより有意義なものになることが期待される。

(2) 読解〈展開〉

『舞姫』の本文を一切割愛せず、理解補助のための語句や内容の説明・解説を記したプリントと並行して読解する。全文を取り扱い、全ての場面を等価に扱うことによって、後に生徒が回想録を創作する際に、より多角的に思考することが可能になると考えられる。

(3) 日記作成〈まとめ〉

各時のまとめとして、その時間に読解した場面の日記を豊太郎視点で記す活動を行う。ここでは、物語の展開には一切手を加えないものとし、他の選択の可能性があったかどうか、なぜその選択をしたか、豊太郎の心情などを日記形式でまとめてることで、(1)※2 [2]内容理解の確保を補完し、読解内容をさらに深め、内面化するとともに、回想録創作の際に参考にできるようする。この活動は、帰日の船内を描いた第一場面を除く全ての場面で行う。

3 思索的探究と交流（第3次：3時間）

多角的・論理的に思考するために、回想録の創作活動を行う。今次は、①回想録の創作→②回想録についての意見交流→③回想録の再創作の3時間構成である。第3次開始時に、回想録創作活動の流れと留意事項についてプリントを用いて説明し、いずれの時間においても展開の実現可能性を多角的・論理的に考えるよう強調する。

(1) 回想録の創作（第3次・第1時）

豊太郎にとっての最良の結末を考えて、その結末を迎えた後の回想録を600字程度で創作する活動を行う。この活動を通して、豊太郎に取ることが可能と思われる行動・選択とその後の結末を、『舞姫』本文の記述や時代背景などを考慮して多角的・論理的に考える。

(2) 回想録についての思索的探究の交流（第3次・第2時）

3人から4人のグループ（座席順の無作為グループ）を作り、各自の回想録をお互いに読み合い、意見を交流する。意見交流では実現可能性（述べられている行動や選択を本当に取ることができるか、その行動や選択が述べられている結末につながるか）に焦点を当てるものとし、最良の結末がどのようなものかについては原則として議論の対象としない。何をもって最良とするかは、個々人の価値観が強く反映する部分であり、論理的に考えるという本活動から逸脱する恐れ

があるからである。

(3) 回想録の再創作〈第3次・第3時〉

回想録についての思索的探究の交流で得られた視点や考え方、自分の回想録の課題点を参考にして最終的な回想録を創作する。

本 時 案 (第 13 時)		
本時の目標	学習活動 指導上の配慮事項など 評価・方法など	
様々な意見・考えに触れ、自分の考えと照らし合わせることで、より多角的で論理的な思考を行うことの契機とする。		
1 【導入】5分 (1) 本時の目標および学習活動を確認する。 (2) グループ活動の準備を行う。	○本時目標と活動の手順を板書する。 ○前時に創作した回想録(指導者からのコメントは入れない)を返却する。 (原本とコピー×3枚の計4枚セット) ○コピーをグループ内で交換する。 ○タイムキーパーは指導者が行う。 ○「○納得できた点」、「?疑問に思った点」「□自分の意見」をそれぞれ箇条書きで簡潔にまとめさせる。 ○残り1分になったらアンスし、次の活動にスムーズに移行できるようにする。(2)も同様。 ○自由な交流の場とするが、全員が発言するように指示する。 ○意見のやりとりができるように留意させる。(各々が感想を述べるだけの感想表明で終わってしまわないようにさせる)	○人物、情景、心情の描写などから作品を味わい、主人公の置かれている境遇を踏まえてその心情や苦悩をとらえようとしている。(関心・意欲・態度) ○人物、情景、心情の描写などから作品を味わい、主人公の置かれている境遇を踏まえてその心情や苦悩をとらえようとしている。 (関心・意欲・態度) 【評価方法】 □行動・発言の観察 【指導の手立て】 △意見を記入できない生徒、話し合いの活発でないグループに対しては、疑問や自分の考えとの相違点がないのか搖さぶりをかける。 ○作品内の様々な記述や時代背景を踏まえた多角的・論理的な読解をしている。 (読む能力)
2 【展開】45分 ◎4(3)人のグループ活動 (1)他の人の回想録を読み「コピー」の下枠に意見を記入する。 (8分×3) (2)記入した意見を元に、意見交換と質疑応答を行う。対象の回想録の執筆者を進行役とする。「コピー」は意見交換終了後執筆者に渡す。 (5分×4)		
3 【まとめ】10分 (1)グループ活動で得られた新しい視点や課題点を「原本」の下枠にまとめれる。 (2)次時の学習内容を確認する。	○次時のためのメモとして、極力多くのことを箇条書きで記させる。 ○次時に回想録を完成させられるように、今回得られた気づきや課題点について考えておくように指示する。	